

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400236		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホームほかほか		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	平成26年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、軽度認知症の方の施設と思われがちであるが、当ホームでは、医療との密な連携を図り、看取りまでをモットーとし支援しております。よくある質問として、どのような状態でこちらの施設でみてもらえますか？とあります。医療を入院により受ける必要がある場合、また、特殊な医療が必要でGHでの生活は困難な場合以外は受け入れています。そのときには、家族様に十分説明を行い同意を得ています。また、軽度ではなく、中程度、重度な認知症の方の対応も、家族様は困って相談にこられており、十分理解した上で、当GHの介護スタッフ、医療の連携、環境を踏まえた上でできるだけ受け入れるように努力しております。このようにオープン以来10年がたち、介護福祉士も12名、看護師2名、そのほか5名という専門者として、住み慣れた地域で最期まで生活が送れるようにサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に海や山のある自然環境豊かな環境に位置している。日頃から事業所は、地域の一員としての交流を行っている。理念に基づき、家庭的で温かみのある、利用者一人ひとりに応じたケアに取り組んでいる。家族の協力や理解を得たうえで、協力医療機関との連携を図りつつ利用者の終末期支援にも取り組んでいる。職員は“最後まで利用者に寄り添い、ケアできる喜びや感謝”を心がけて取り組んでいる。利用者の健康管理や防災についても配慮を行い、安心と安全の保障に努めている。代表者や管理者は、職員の育成と成長が支援の質の向上に繋がると考え、職員意見や提案の反映、働きやすい職場環境づくり、資格取得、研修受講支援等に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として『温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援していきます。』があり、その代表として「人生最後の時を過ごしたい」、「私の人生は幸せだった」と感じて頂けるよう、介護サービスを行い、毎日朝礼、ミーティングで職員同士で唱和している。	事業所では、理念を玄関や各ユニットに掲げている。朝礼やミーティング時に、職員間で理念を唱和したり、話し合いや振り返ったりすることで、理念に沿った介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児や地域のボランティア、地域医療研修の医学部生の方々などが訪問して下さり、入居者の方との交流を図っています。また、地域の祭り等にも参加し、交流を図っています。	事業所周辺の散歩時に地域住民と交流を行ったり、来訪を受け入れたりしている。保育所の子どもや地域医療研修の医学部生との交流も行っている。また、地域行事にも参加している。利用者が重度化の傾向にあっても、事業所として利用者と地域の繋がりを大切に捉えた支援をしている。	開設後10年を迎え、介護や認知症、医療連携等の豊富な経験を蓄積している。介護相談に加えて、介護教室や集いの場の実施など、地域住民との交流をさらに深める取り組みについて検討されるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、又居宅介護支援事業所等からの相談もあります。又、入居希望、そうでない相談も電話等で頂き、これまで培った認知症状の理解、支援方法の相談をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回以上の開催を行っています。町、社協協力医療機関、家族の方々に参加して頂き、現状報告、今後の取り組みを報告し、様々な意見を頂き、報告書にまとめ職員に周知し、サービス向上に活かしております。	年6回、運営推進会議を開催している。会議には、家族や様々な地域住民等の出席を得ており、事業所の取り組みや防災等の課題について意見交換を行っている。出された意見を議事録として記録し、全職員で共有したうえで、良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。事業所の行事にあわせて開催することもあるが、会議内容の充実を目指して取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町に提出する書類等なるべく郵送せず、直接窓口が届けています。わからない事などあれば電話での連絡も密に行っています。運営推進会議にも毎回担当の方が出席して下さり、連携を図っております。	町担当者との協働関係を構築している。毎週、管理者や職員が町担当窓口を訪問し、書類の提出や情報共有、質疑等を行っている。事業所の会議にも出席してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先に啓示しており、身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。朝礼時等身体拘束にあたるかどうか話し合い、拘束がないよう心がけています。	事業所全体で、身体拘束をしないケアに向けた意識啓発を頻繁に行っている。朝礼やミーティング、勉強会等を通じて、直接的な拘束以外にも、言葉やコミュニケーションによる拘束はないかなどをつねに意識して取り組んでいる。日中は玄関を開放しており、利用者の自由や自発性を束縛することのないよう、さりげない見守りと安全確認に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時や職員会議時、日々の処遇について考えさせる機会を設けており、また管理者は職員から情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には対象者がいるので、担当者で話しをさせていただいたり、司法書士の先生から指導を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が詳細に説明しています。介護保険改定時や介護報酬改定時などは、文書を送付、訪問にて説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの要望、意見は運営推進会議等で受ける機会を設けており、また玄関に意見箱も設けている。	事業所では、日頃の利用者との生活を通じて意向や意見を聞くようにしている。家族の来訪時には、職員から声かけを行っている。利用者や家族から出された意見については、内容に応じて組織的な検討を行い、迅速に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回は職員対話を個別に行っている。要望等は朝礼時等職員から意見があり、可能な限り意見を反映できるよう心がけております。	職員は、朝礼やミーティングを通じて、意見や提案を代表者へ通じるようにしている。管理者やユニットリーダーは、職員が意見を述べやすい関係作りに努めている。また、管理者が中心となって、年2回の個別面談の機会を設けている。サービスの質の向上に関する意見や提案を大切にしており、具体的なケアの場面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく業務時間内で業務が終わるよう管理し、働きやすい環境を整えられるよう努めています。また資格を取ることで、給与に反映されるようにし、向上心も持てるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修会を年に数回、協力医療機関PT等をお願いして開催し、介護のみならずリハに関する知識も得る機会を設けています。また外部研修にも参加できるよう環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関Drの交友関係にて他県、他郡市町村の同業者とのネットワーク、つながりがあり研修の行き、意見の交換が行えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居できるよう、アセスメントを行い、不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居できるよう対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居できるよう、アセスメントを行い、不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居できるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーを含め、現状の状態を見極め、安易に入居にすすめないよう対応し、今までの生活を尊重し、それを踏まえ、適切な介護サービス行えるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方との近い関係性を保ちながらも、馴れなれしい態度、ケアにならないよう、常に人生の先輩と言う意識を大切に、職員に周知している。共に生活を送り、信頼関係が築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払い時、窓口での支払いであり、最低でも月に1回はホームへきて頂いています。遠方のご家族の方とは、居室担当者が密に連絡を取ったりし、近況報告や、足り物の購入の連絡を行い、共に支え合う支援を行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、家族の方、知人、親類の方々が訪問できるよう対応しています。隣接しているデイサービスやサ高住からも知人等お会いできるよう他事業所とも、連携を図り支援しています。	利用者の馴染みの人や場所を把握するため、事業所独自のシートを活用している。家族や知人の来訪に加えて、近隣他サービス事業所との交流も行っている。外出や帰宅の要望がある利用者には、職員が写真を撮ってきて安心してもらうなどの気配りも見受けられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションとして壁画等作り、一つの作品を、みんなで完成させ、密にコミュニケーションも図れる環境を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良や怪我等で入院して病院へ入院された場合、週2回程度見舞いに行き、病院、家族との連携、本人の状態把握を行っております。又他施設へ移られても、何度か訪問し安定した生活が送れているか把握を行っております。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、入居者の方の希望が叶えられるよう支援しているも、体調面の管理等で不可能な面もみられており、本人、家族にその旨を伝えていきます。	利用者や家族から希望を聞き、一人ひとりの思いや意向、生活歴等をアセスメントシートに記入して情報を把握・共有している。職員は、日頃から利用者の話をよく聞くように努めている。思いや意向の表出が困難な利用者には、表情や仕草などから本人本位に汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、自宅で暮らしていた状況を、家族の方に、用紙に記入して頂いたり、聞き取りで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握を行い、できる限り自身で行えるよう支援し、ADL、QOLの向上が図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時にカンファレンスを行い、現状に必要なケアプランを職員で話し合っている。家族の方々の参加は難しいですが、支払い時や面会時に意見を頂いています。	利用者や家族の意見、またカンファレンスで出された職員の意見を反映した介護計画を担当者が作成している。職員間で協力し合い、利用者一人ひとりの状況に応じた計画の作成に努めている。計画で示した目標の達成に向けた実践と振り返りを繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察、気づきを交えて記載し、その記録を元に介護計画にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の訴え等があれば、可能限り対応し、日々の朝の申し送り時に職員の意見も聞き、話し合いを行い、サービス向上を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室の方に訪問して頂き、入居者の方のカットを年に何回して頂いております。その他、踊りや、歌等のボランティアの方々も何回か訪問して頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携が図れており、入院等の必要な場合は、家族の方へ連絡説明を行い、かかりつけ医により、紹介状を頂、スムーズに病院で診察、治療が行えるよう支援しています。	入居時の段階で、利用者や家族にかかりつけ医の希望を確認している。また、事業所では日常的に協力医療機関の医師と連携を図っており、利用者や家族が安心できる健康管理体制を整備している。事業所として、専門医等の受診支援も行っており、利用者一人ひとりにあった医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは看護師2名が介護職として配置しており、日々の健康管理、かかりつけ医の指示等がスムーズに行えるよう支援している。また医療連携の看護師にも電話、訪問して頂き、健康管理、相談も行ってあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、かかりつけ医、施設側が直接密に連絡を取り、信頼関係が構築出来ており、入院時、週2回は職員が病院へ行き、状態の把握を行い、主治医との連携を図り、早い時期での退院が行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明をおこなっております。実際重度化になった際は、家族の意向を聞き、協力医療機関と密に連携を図り、対応について職員にも周知し、家族、医療、職員で支援できる体制を整えています。	入居時、及び利用者の状態に変化が見受けられた際などには、利用者や家族に説明を行い、事業所のできることでできないことを明確に示し、意向確認を行っている。協力医療機関と連携し、家族の協力を得たうえでチームで看取りを行っている。管理者やユニットリーダーなどは、看取り介護を実施するにあたり、職員の不安解消にも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、Drとすぐ連絡が取れる体制を整えており、Drとの連携も図れている。緊急時の対応については、看護師により説明を随時受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を行っております。津波非難訓練も、昨年、町防災課の協力を得て、整備された避難所を活用し、訓練を実施しました。	年2回、町や地域の消防の協力を得て、総合訓練、津波避難訓練を実施している。訓練には利用者も参加しており、実践的なものとなっている。南海トラフ地震対策として防災計画を見直し、運営推進会議で話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方を尊重し、声かけ等の注意、指導を管理者は行いながら、職員同士でも確認しあい、プライバシーを損ねない対応を心がけております。	事業所では、利用者のプライバシーへの配慮の一環として、居室に表札を掲げないなどの配慮を行っている。言葉かけや入浴、トイレ、誘導等のケアの場面において、事業所全体で利用者のプライバシーや誇り、自尊心を尊重するといった意識をもって支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	密に入居者の方とコミュニケーションを図り、本人の想い等を把握し、実現、自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方のペースに合わせて、できる限り支援を行っているも、職員が少ない時間帯に関しては、支援が困難な状態もみられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を十分把握し、その人にあった身だしなみ、おしゃれが行えるよう、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理面に関しては、一括で厨房で作っており、定期的に手作りの食事を入れ、その際に、食材の処理等を手伝って頂いています。衛生面も考えながら、食器拭き等の後片付けなども手伝える環境を整えられるよう支援しています。	利用者と職員は、テーブルを囲んで会話を楽しまつ、一緒に食事をしている。利用者はできる範囲で食器の片付け等を行っている。月数回は、利用者と職員でおやつ作りを楽しんでいる。中庭で焼きそばを焼いたり、外食を楽しんでもらったりすることもある。季節感のあるメニューや身体状況に応じた食事の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、栄養士がいない為、Drからの健康面でのカロリー、水分摂取等の指示があり、Nsを中心に栄養面での管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、清掃を行い清潔に保てるよう支援しています。又、必要があれば、歯科医の訪問診察も受けれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりにあった排泄パターンに合わせて支援が行えるよう対応し、できる限りオムツ対応を少なくし、自立排泄が維持できるよう支援しています。	事業所では、排泄の自立支援と安全確保の双方に配慮した支援を行っている。利用者の排泄記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は利用者に合わせてトイレ誘導を行っている。夜間も自分でトイレに行く利用者に対しては、ポータブルトイレを設置したり、壁や手すりにつかまってトイレへ行くことができるようベッドの位置にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療と連携を図り、排便が3日以上出ていない方は、Nsに報告し、緩下剤や洗腸等でのスムーズに排便が出るよう対応しています。日常では水分摂取、適度な運動を行いスムーズに排泄が行えるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴の方に関しては週3回を目安に入浴できるように対応し、入る時間帯は午後からも、曜日は決めずに本人のタイミングで入れるよう心がけています。ただし一般浴での入浴が行えない方は、特浴にて、週2回曜日を決めて行っております。	一般浴の方は週3回、特別浴の方は週2回を目安として入浴してもらっている。利用者の希望に応じて、入浴時間を変更している。身体状況等の理由から入浴が困難な場合には、清拭で対応するなどの配慮も見受けられる。菖蒲湯や柚子湯により季節感を楽しむ配慮も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方個々の生活パターンを把握し、医療的な事も含め職員同士で話し合い、休息の時間が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関と密に連携が図れており、介護職としてNsも配置しており、服薬等に関してはいつでも聞ける体制は整っており、新し薬が処方された場合は、Nsにより職員へ周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々の趣味や嗜好等、入居前に事前にご家族に用紙に記入して頂き、それを元に職員で話し合い、入居後も本人の意欲を引き出し、張り合いのある生活が送れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な入居者の方は、ご家族と一緒に自宅に外泊されたり、外出できるよう支援しています。現在ボランティアを通じての外出支援は行っていません。	日頃から天気の良い日には、事業所周辺の公園等へ散歩に出かけている。中庭で外気浴を楽しんでもらうこともある。季節の花見や地域の祭りにも出かけている。また、家族とともに外出を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に家族の方が了承している方は、数千円程度もたれて支払う方もおられますが、大半の方が施設の立替払いにて、購入した際は全てレシートで何を購入、又使用したか家族の方へ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方の承諾を得ている方は、携帯電話等で自ら連絡を取られている方もおられるも、大半は職員が家族と連絡を取っています。お正月には、年賀はがきを担当職員と作成し、家族、友人、知人に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方に居心地よく過ごして頂けるよう日々の清掃や配置換え、季節に応じた模様替えを行い、季節感を感じ、落ち着いて生活を送れるよう支援しております。	共有空には明るい日差しが差し込んでおり、清掃の行き届いた場所となっている。各ユニットには、ソファや掘り炬燵等を設置し、家庭的でゆったりと過ごすことのできる空間となっている。中庭には花壇があり、また壁面には季節感のある飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや掘りごたつなどが共用スペースにあり、一人ひとりが思い思いに、過ごせれるよう環境は整っており、畳の間で洗濯たみを手伝って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り使い慣れた物を、持ってきていただくようお願いしております。入居後の生活状況や状態の変化にて、職員で話し合い、居室の配置換え等を行い、現状にあった環境を整え、落ち着いて過ごせれるよう支援しています。	利用者が、安心・安全・心地よく過ごすことができるよう居室づくりに配慮している。居室には、利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらっている。家族や記念の写真を飾っている利用者もいる。各室には、エアコンとベッドを設置しているが、ベッドが苦手な利用者には布団を利用してもらうなどの配慮も見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方の安全、安心を第一に考え、福祉用具等も活用し、できる限り自立して過ごせる環境を整えれるよう、職員同士で話し合い支援しております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として『温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援していきます。』があり、その代表として「人生最後の時を過ごしたい」、「私の人生は幸せだった」と感じて頂けるよう、介護サービスを行い、毎日朝礼、ミーティングで職員同士で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児や地域のボランティア、地域医療研修の医学部生の方々などが訪問して下さり、入居者の方との交流を図っています。また、地域の祭り等にも参加し、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、又居宅介護支援事業所等からの相談もあります。又、入居希望、そうでない相談も電話等で頂き、これまで培った認知症状の理解、支援方法の相談をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回以上の開催を行っています。町、社協協力医療機関、家族の方々に参加して頂き、現状報告、今後の取り組みを報告し、様々の意見を頂き、報告書にまとめ職員に周知し、サービス向上に活かしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町に提出する書類等なるべく郵送せず、直接窓口には届けています。わからない事などあれば電話での連絡も密に行っています。運営推進会議にも毎回担当の方が出席して下さり、連携を図っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先に啓示しており、身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。朝礼時等身体拘束にあたるかどうか話し合い、拘束がないよう心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時や職員会議時、日々の処遇について考えさせる機会を設けており、また管理者は職員から情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には対象者がいるので、担当者と話しをさせていただいたり、司法書士の先生から指導を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が詳細に説明しています。介護保険改定時や介護報酬改定時などは、文書を送付、訪問にて説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの要望、意見は運営推進会議等で受ける機会を設けており、また玄関に意見箱も設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回は職員対話を個別に行っている。要望等は朝礼時等職員から意見があり、可能な限り意見を反映できるよう心がけております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく業務時間内で業務が終わるよう管理し、働きやすい環境を整えられるよう努めています。また資格を取ることで、給与に反映されるようにし、向上心も持てるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修会を年に数回、協力医療機関PT等をお願いして開催し、介護のみならずリハに関する知識も得る機会を設けています。また外部研修にも参加できるよう環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関Drの交友関係にて他県、他都市町村の同業者とのネットワーク、つながりがあり研修の行き、意見の交換が行えるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居できるよう、アセスメントを行い、不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居できるよう対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居できるよう、アセスメントを行い、不安に思われていることを少しでも緩和でき、スムーズに入居できるよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーを含め、現状の状態を見極め、安易に入居にすすめないよう対応し、今までの生活を尊重し、それを踏まえ、適切な介護サービス行えるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方との近い関係性を保ちながらも、馴れなれない態度、ケアにならないよう、常に人生の先輩と言う意識を大切に、職員に周知している。共に生活を送り、信頼関係が築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払い時、窓口での支払いであり、最低でも月に1回はホームへきて頂いています。遠方のご家族の方とは、居室担当が密に連絡を取ったりし、近況報告や、足り物の購入の連絡を行い、共に支え合う支援を行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、家族の方、知人、親類の方々が訪問できるよう対応しています。隣接しているデイサービスやサ高住からも知人等お会いできるよう他事業所とも、連携を図り支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションとして壁画等作り、一つの作品を、みんなで完成させ、密にコミュニケーションも図れる環境を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良や怪我等で入院して病院へ入院された場合、週2回程度見舞いに行き、病院、家族との連携、本人の状態把握を行っております。又他施設へ移られても、何度か訪問し安定した生活が送れているか把握を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、入居者の方の希望が叶えられるよう支援しているも、体調面の管理等で不可能な面もみられており、本人、家族にその旨を伝えていきます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、自宅で暮らしていた状況を、家族の方に、用紙に記入して頂いたり、聞き取りで把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握を行い、できる限り自身で行えるよう支援し、ADL、QOLの向上が図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時にカンファレンスを行い、現状で必要なケアプランを職員で話し合っている。家族の方々の参加は難しいですが、支払い時や面会時に意見を頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察、気づきを交えて記載し、その記録を元に介護計画にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の訴え等があれば、可能限り対応し、日々の朝の申し送り時に職員の意見も聞き、話し合いを行い、サービス向上を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室の方に訪問して頂き、入居者の方のカットを年に何回して頂いております。その他、踊りや、歌等のボランティアの方々も何回か訪問して頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携が図れており、入院等の必要な場合は、家族の方へ連絡説明を行い、かかりつけ医により、紹介状を頂、スムーズに病院で診察、治療が行えるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは看護師2名が介護職として配置しており、日々の健康管理、かかりつけ医の指示等がスムーズに行えるよう支援している。また医療連携の看護師にも電話、訪問して頂き、健康管理、相談も行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、かかりつけ医、施設側が直接密に連絡を取り、信頼関係が構築出来ており、入院時、週2回は職員が病院へ行き、状態の把握を行い、主治医との連携を図り、早い時期での退院が行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明をおこなっております。実際重度化になった際は、家族の意向を聞き、協力医療機関と密に連携を図り、対応について職員にも周知し、家族、医療、職員で支援できる体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、Drとすぐ連絡が取れる体制を整えており、Drとの連携も図れている。緊急時の対応については、看護師により説明を随時受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を行っております。津波非難訓練も、昨年、町防災課の協力を得て、整備された避難所を活用し、訓練を実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方を尊重し、声かけ等の注意、指導を管理者は行いながら、職員同士でも確認しあい、プライバシーを損ねない対応を心がけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	密に入居者の方とコミュニケーションを図り、本人の思い等を把握し、実現、自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方のペースに合わせて、できる限り支援を行っているも、職員が少ない時間帯に関しては、支援が困難な状態もみられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を十分把握し、その人にあった身だしなみ、おしゃれが行えるよう、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理面に関しては、一括で厨房で作っており、定期的に手作りの食事を入れ、その際に、食材の処理等を手伝って頂いています。衛生面も考えながら、食器拭き等の後片付けなども手伝える環境を整えるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、栄養士がいない為、Drからの健康面でのカロリー、水分摂取等の指示があり、Nsを中心に栄養面での管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、清掃を行い清潔に保てるよう支援しています。又、必要があれば、歯科医の訪問診察も受けれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりにあった排泄パターンに合わせて支援が行えるよう対応し、できる限りオムツ対応を少なくし、自立排泄が維持できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療と連携を図り、排便が3日以上出ていない方は、Nsに報告し、緩下剤や浣腸等でのスムーズに排便が出るよう対応しています。日常では水分摂取、適度な運動を行いスムーズに排泄が行えるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一般浴の方に関しては週3回を目安に入浴できるよう対応し、入る時間帯は午後からも、曜日は決めずに本人のタイミングで入れるよう心がけています。ただし一般浴での入浴が行えない方は、特浴にて、週2回曜日を決めて行っております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方個々の生活パターンを把握し、医療的な事も含め職員同士で話し合い、休息の時間が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関と密に連携が図れており、介護職としてNsも配置しており、服薬等についてはいつでも聞かれる体制は整っており、新し薬が処方された場合は、Nsにより職員へ周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々の趣味や嗜好等、入居前に事前にご家族に用紙に記入して頂き、それを元に職員で話し合い、入居後も本人の意欲を引き出し、張り合いのある生活が送れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な入居者の方は、ご家族と一緒に自宅に外泊されたり、外出できるよう支援しています。現在ボランティアを通じての外出支援は行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に家族の方が了承している方は、数千円程度もたれて支払う方もおられますが、大半の方が施設の立替払いにて、購入した際は全てレシートで何を購入、又使用したか家族の方へ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方の承諾を得ている方は、携帯電話等で自ら連絡を取られている方もおられるも、大半は職員が家族と連絡を取っています。お正月には、年賀はがきを担当職員と作成し、家族、友人、知人に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方に居心地よく過ごして頂けるよう日々の清掃や配置換え、季節に応じた模様替えを行い、季節感を感じ、落ち着いて生活を送れるよう支援しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや掘りごたつなどが共用スペースにあり、一人ひとりが思い思いに、過ごせれるよう環境は整っており、畳の間で洗濯たみを手伝って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り使い慣れた物を、持ってきていただくようお願いしております。入居後の生活状況や状態の変化にて、職員で話し合い、居室の配置換え等を行い、現状にあった環境を整え、落ち着いて過ごせれるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方の安全、安心を第一に考え、福祉用具等も活用し、できる限り自立して過ごせる環境を整えられるよう、職員同士で話し合い支援しております。		